

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	情報処理 I		
科目基礎情報								
科目番号	0146		科目区分		専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1			
開設学科	電子制御工学科		対象学年		1			
開設期	後期		週時間数		2			
教科書/教材	糸井康孝「猫でもわかるC言語プログラミング」(ソフトバンク) / http://moodle.maizuru-ct.ac.jp/moodle/ で授業内容に関する情報を提供する。							
担当教員	伊藤 稔							
到達目標								
①C言語の基本的な文法を理解する。 ②C言語の制御文について理解する。 ③C言語の関数について理解する。 ④C言語をポインタについて理解する。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	C言語の基本的な文法を理解し活用できる。		C言語の基本的な文法を理解している。		C言語の基本的な文法を理解していない。			
評価項目2	C言語の制御文について理解し活用できる。		C言語の制御文について理解している。		C言語の制御文について理解していない。			
評価項目3	C言語の関数について理解し活用できる。		C言語の関数について理解している。		C言語の関数について理解していない。			
評価項目4	C言語をポインタについて理解し活用できる。		C言語をポインタについて理解している。		C言語をポインタについて理解していない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	現在ではコンピュータだけでなく電化製品や自動車などにもコンピュータが内蔵されており、技術者にとってコンピュータを使いこなすことは必要不可欠である。本授業では、代表的なプログラミング言語の一つであるC言語の基礎を学ぶ。							
授業の進め方・方法	スライドを用いた講義とプログラミング演習を中心に授業を進める。							
注意点	中間試験と期末試験の結果(80%)、授業中に適時行うプログラム演習の提出状況など(20%)で総合的に評価する。到達目標に基づき、プログラムの仕組み、C言語の基本文法と制御構文などの各項目について達成度を評価基準とする。 教室は制御棟3階のCAD/CAM教室を利用する予定である。授業内容によっては教室で行う場合もある。学生の理解レベルや授業進度に応じて授業計画は変更する場合がある。冬休み期間に加点課題(提出任意)を与える場合もある。 研究室 A棟3階 (A-318) 内線電話 8950 e-mail: mito (a) maizuru-ct.ac.jp (a)はアットマークに変える							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, プログラミングのための予備知識		①C言語の基本的な文法を理解する。			
		2週	プログラムの仕組み		①C言語の基本的な文法を理解する。			
		3週	C言語の基本		①C言語の基本的な文法を理解する。			
		4週	変数とデータ型		①C言語の基本的な文法を理解する。			
		5週	式と演算子		①C言語の基本的な文法を理解する。			
		6週	制御文: 条件分岐		②C言語の制御文について理解する。			
		7週	プログラム演習		①C言語の基本的な文法を理解する。 ②C言語の制御文について理解する。			
		8週	中間試験					
	4thQ	9週	中間テストの返却と解説, 前半の内容の復習など		①C言語の基本的な文法を理解する。 ②C言語の制御文について理解する。			
		10週	制御文: 繰り返し		②C言語の制御文について理解する。			
		11週	関数の基本		③C言語の関数について理解する。			
		12週	関数の作成		③C言語の関数について理解する。			
		13週	ポインタの基本		④C言語をポインタについて理解する。			
		14週	関数とポインタ		③C言語の関数について理解する。 ④C言語をポインタについて理解する。			
		15週	まとめ		①C言語の基本的な文法を理解する。 ②C言語の制御文について理解する。 ③C言語の関数について理解する。 ④C言語をポインタについて理解する。			
		16週	期末テストの返却と解説					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	電気・電子系分野	情報	プログラミング言語を用いて基本的なプログラミングができる。			1	後1,後2
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	

專門的能力	80	0	0	0	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0